

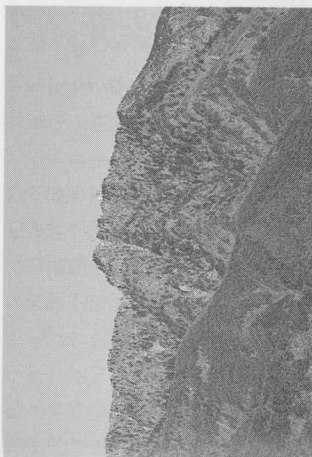
4 三ツ峠山

* 一般向き 日帰り * 適期 11 通年

M231

標高1786mの三ツ峠山は修験道の霊山として開かれ、古くは「神鈴峰」とも呼ばれていた。その信仰の跡は山中の随所に見られる。山頂付近の岩場はロッククライミングのゲレンデとして有名で、山頂付近は植物の豊富なことでも知られている。

三ツ峠山登山道は、東側のダルマ石から登るものを表三ツ峠コース、西の御坂峠方面から登るものを裏三ツ峠コースと呼んでいる。どちらの



富士吉田市内から見た三ツ峠山

コースも、新宿あるいは高尾発の早朝の電車を使えば日帰りができるが、山頂付近の小屋に1泊し余裕をもった山登りを楽しむのもよいだろう。

さて、表三ツ峠コースは富士急行線三ツ峠駅で下車。駅前の道を大月方面に進むと、国道に出る手前に道標がありそこを左折する。すぐに町役場裏でまた左折、富士急行線のガードをくぐって下暮地に向かう。

下暮地の集落を抜けていくと、道は左に曲がる。曲角には地元有志が立てた案内板、道標がある。舗装された林道をいき、柄杓流沢の橋を渡る。右手に町営のグリーンセンターを見て、なお進むと大山祇神社がある。しばらく沢沿いにいくが、

◎三ツ峠山

富士急行線三ツ峠駅(1時間30分)ダルマ石(2時間)八十八大師(1時間)三ツ峠山(15分)母ノ白滝分岐(2時間)西川林道(30分)天上山(河口湖)天上山ロープウェイ(3分)河口湖(20分)

富士急行線河口湖駅

歩程 17 時間 35 分

▼サブコース①

富士急行線河口湖駅(富士急行バス24分)三ツ峠入口(45分)三ツ峠登山口バス停(50分)三ツ峠登山口(1時間45分)三ツ峠山

歩程 13 時間 20 分(三ツ峠山まで)

▼サブコース②

三ツ峠山(15分)母ノ白滝分岐(1時間20分)母ノ白滝(30分)河口湖前(富士急行バス12分)富士急行線河口湖駅

歩程 12 時間 5 分

地形図 15 万/都留 25 万/河口湖東部

◎山行アドバイス

・日帰りの日程で十分こなせるが、体力に自信がなかったり、日の短い

季節であれば、山頂付近の小屋に泊まって余裕のある山歩きを楽しむとよい。四季楽園、富士見山荘、三ツ峠山荘などの山小屋があり通年営業しているが、宿泊にあたっては事前確認しておくこと。

・三ツ峠山は名のように3つのピークをなしており、北寄りにある鷹ノ巣山付近は草原が開け、7月上旬のアイヌ、7月下旬のゲンナイツウロ、7月中旬から8月上旬に咲くオタマキ、シモツケソウなどの群落が美しい。余裕があれば立ち寄ってみるとよい。

・あまり水場にはめぐまれておらず、長い行程を歩くことになるので十分な量を用意しておきたい。山頂近くでは白雲荘跡の手前にあるルンゼに水が流れているが、過水期には涸れてしまう。

・河口湖前のバス停近くには、日帰り温泉施設の野天風呂天水(055・76・8826)がある。営業時間は10時~22時で、年中無休。

4月下旬にはこのあたり一帯は桜の花がみごとである。

やがて林道は右に曲がるが、登山道はまっすぐ延び、沢を横切るとま

もなくダルマ石につく。かたわらの巨大な石には「アーク」と読む梵字が刻まれ、日本語では不空成就如来を意味しているという。

この先、道は急坂続きとなる。入山者が多いためコースはよく踏まれており、道標も整備されているので迷うことはない。途中、赤い剪掛けをかけた八十八大師の石仏群があるが、急坂に気をとられていると見落としてしまう。八十八大師から道はゆるやかになり、白雲荘跡をすぎると山頂西面に広がる岩壁、屏風岩の基部に出る。

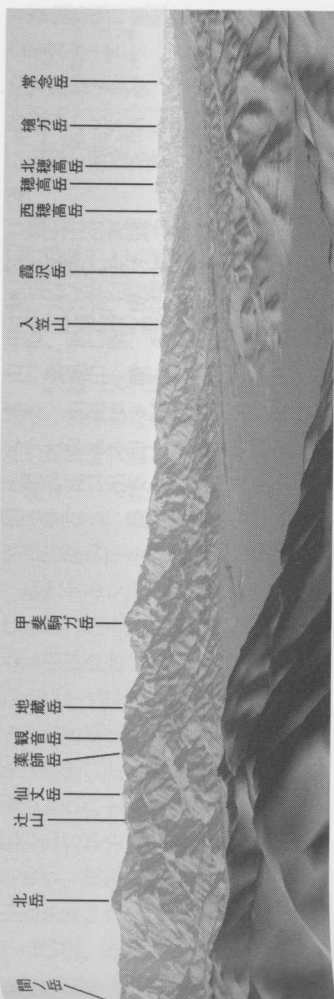
練登するクライマーの声を聞きながら岩場の下を回り込んで、急な階段を登ると、高原状の尾根に立つ山小屋の前に出る。右手のパラボラアンテナのあるピークが三ツ峠山頂である。山頂からは丹沢山塊、箱根連山、愛鷹山、御正体山、石割山、山中湖、河口湖、さらに南アルプス連峰、八ヶ岳、奥秩父連山と限りなく続く展望は実にすばらしい。とりわけ富士山の秀麗な眺めが魅力的である。

山頂で展望を楽しんだら、木無山の草原へと下り、岩場でのクライミング風景を見物しながら大休止することしよう。

下山は府戸尾根にコースをとる。



富士山と富士五湖周辺の山



木無山から少し下つて、母ノ白滝ニ
一ノスを右に分け、樹林のなかの尾根
道をたどる。正面にはテシと名まえ
る富士山、右に河口湖を眺めながら
のんびり下つていく。送電線鉄塔の
下を通り、霜山^{しもやま}、郷倉山^{きょうくら}を巻いてす
ぎると西川林道に出る。林道を越え
てしばらくでロープウェイのかかる
天上山につく。ここからロープウェ
イを利用して河口湖畔へ出れば、河
口湖駅までは20分ほどでつく。

●おたのコース①
裏三ツ峠コース

河口湖駅から甲府行きのバスに乗り三ツ峠入口で下車する。

バス停から右に旧御坂トンネルに向かう車道を登っていくと、45分ほどで三ツ峠登山口バス停につく。シーズン中の休祭日には天下茶屋まで上がる臨時バスが運行されるので、それを利用することもできる。人数が揃えば河口湖駅からタクシーを利用するよりよい。

三ツ峠登山口バス停から右手の清
八林道に入り西川の橋を渡る。やが
て丁字路に出るが、三ツ峠山へは左

の道を取り、しばらく進むと資材小屋がある。駐車スペースもあって一般車輛はここまで入れる。

ここで清人林道と分かれて右手の登山道に入り、林のなかを直登していく。金芳震災の記憶を聞きながら登り、最後の堰堤のところで右にカーブする。再び林のなかを登るが、途中コンクリート製のベンチがあるので小休止しよう。

急なカーブを3、4回すぎるとゆるやかな登りとなり、母ノ自滝への下山コースの分岐がある。左に道をと、木無山の中腹をいくと尾根道に出て、すぐ上には山小屋の四季楽園が立っている。

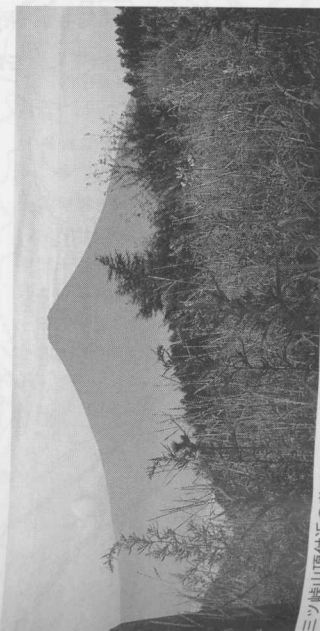
山荘前で休憩してから三ツ峠山頂まで復讐してこよう。下山は距離的には長いが展望のよい府戸尾根・天上山コースか、または次に紹介する母ノ白竜コースをとる。

●おトコース②

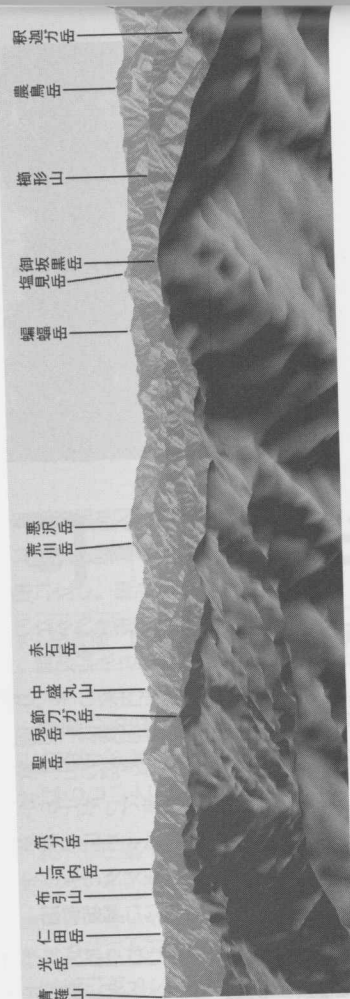
ニッ峠山頂で大パノラマを楽しんだら木無山へと向かい、裏ニッ峠コースを右に見送って、河口湖を眺め

なから下りてこい。

ほどなく府戸尾根 天山コース
との分岐があり、右に進んでなだら
かな八丁峠をすぎると、やがて西川
新倉林道の三差路に出る。未舗装の
新倉林道に入り、二回ほどショート
カットの道を下って送電線の下を通
れば、まもなくゆるやかな尾根道が



三ツ峠山頂付近の草原から富士山を見る



ら、滑りやすい急な山腹を下つて母
ノ白滝に出る。水量もますますで下
段は20メートルほどの立派な滝である。林
道終点の広場から全谷が眺められる。
秋の紅葉期には美にきれいだ。

滝を後になだらかな道を河口湖に
向かつて下つていくとしばらくで林
道に出て、富士浅間社前を通り、国
道にある河口局前のバス停につく。

近くに温泉施設があり人浴も可能である。ここからバスで河口湖駅に出てもよいが、4人以上であれば、近くの国民宿舎「富士河口湖ロッジ」そばの湖畔から、渡船に乗って富士山を眺めながら船津浜まで出るのも楽しい。渡船場まで10分、船は15分で船津浜へ。そこから駅まで徒歩約15分である。

●三ツ峠山からの展望
三ツ峠山より西方向を望む。
富士山の展望で知られる山だが、
南アルプスの展望も一級だ。空
気の澄む朝方をねらって、南ア
ルプスの山座同定に挑戦しよう。

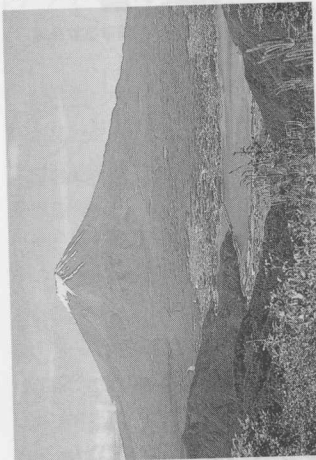
5 旧御坂峠から黒岳・新道峠

*一般向老 日歸り *適期＝通年

M 234

御坂山から旧御坂峠を経て黒岳を結ぶコースは、三ツ峠の混雑に比べるにとわりと静かな登山を楽しむことができる。樹林に囲まれた尾根道は、とくに新緑の頃の味わいがすばらしい。

河川湖駅から天下茶屋行きのバスに乗り終点で下車するが、このバス路線はシーズン中の休祭日の運行なので、それ以外のときは甲府行きのバスに乗り、三ツ峠人口で下車して



御坂山から富士山と河口湖を見る

御坂トンネル手前を右へ入り、車道
歩き約6^{キロ}で天下茶屋につく。

旧御坂トンネル手前を左に入ると、「富士には目黒臺がよく似合う」と彫られた大幸治の文学碑の前に出る。このあたりはよく整備されていて歩きやすい。

ひと登りして磯線に出ると、右は清津^{せいち}峠へ、黒岳へは左にコースをとる。ここからは尾根道となり新緑時には小鳥のさえずりが賑やかに、初夏にはセミの大合唱が聞こえる。ブナ原生林のなかを登っていくと御坂山につく。御坂山の山頂は雑木林のなかで、展望はあまりよくない。御坂山から下りとなって送電線の鉄塔を通過する。このあたりは6月初旬にはツツジの花が咲きそろい、富